

授業科目名	<p style="text-align: center;"><b>広域看護特論Ⅱ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Advanced Studies in Life-support Nursing II</i></p>			担当教員	高橋 清美、山勢 善江 小林 裕美、濱元 淳子
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	<p>クリティカルケア、メンタルヘルスケア、在宅ケアの各分野において、活用できる概念、諸理論などについて検討し、各分野における専門性の発展のための方法を探究する。</p>				
到達目標	<p>&lt;クリティカルケア分野&gt; クリティカルケアを受ける患者および家族を、全人的に理解し看護を提供するための諸理論とその適用について探究する</p> <p>&lt;メンタルヘルスケア分野&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会におけるメンタルヘルスの問題を分析し、対応すべき課題について抽出できる</li> <li>2. メンタルヘルスの状態を把握するためのアセスメント内容・方法を検討する</li> <li>3. 先行研究を用いてメンタルヘルスの安定を保つための方法を検討し、新たな対応策を探究する</li> </ol> <p>&lt;在宅ケア分野&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅ケアの最新の動向を探索し、政策的方針と今後の課題を抽出し、文章化できる</li> <li>2. 在宅看護の専門性とは何かについて、自己の考えを明らかにすることができる</li> <li>3. 探究するテーマに関連する事柄を選定し、その研究動向についてまとめることができる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;クリティカルケア分野&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回 クリティカルケアとは何か、発展プロセスと現状を理解する。(山勢)</li> <li>2回 生体侵襲理論を用いた患者のアセスメント (濱元)</li> <li>3回 生体侵襲理論を用いた患者のアセスメントと看護介入 (濱元)</li> <li>4回 危機理論、ストレスコーピング理論 (山勢)</li> <li>5回 危機理論、ストレスコーピング理論を用いたアセスメントと看護介入 (山勢)</li> <li>6回 クリティカルケアにおけるトピックス① (山勢・濱元)</li> <li>7回 クリティカルケアにおけるトピックス② (山勢・濱元)</li> <li>8回 クリティカルケアに関する最近の国内外の保健・看護論文を学生が選択し、論文抄読・クリティークを行なう。(その1) (山勢・濱元)</li> <li>9回 " (その2) (山勢・濱元)</li> <li>10回 " (その3) (山勢・濱元)</li> <li>11回 " (その4) (山勢・濱元)</li> <li>12回 " (その5) (山勢・濱元)</li> <li>13回 " (その6) (山勢・濱元)</li> <li>14回 " (その7) (山勢・濱元)</li> <li>15回 " (その8) (山勢・濱元)</li> </ol> <p>&lt;メンタルヘルスケア分野&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回 現代社会と精神保健 (高橋)</li> <li>2回 精神発達に伴う精神保健的問題 (人格水準と発達課題) (高橋)</li> <li>3回 脳の生理的機能と行動との関連 (高橋)</li> <li>4回 精神アセスメント (精神症状・状態像の把握) (高橋)</li> <li>5回 精神障害と身体合併症看護 (高橋)</li> <li>6回 精神障害とリエゾン精神看護 (高橋)</li> <li>7回 精神科救急医療と看護 (高橋)</li> <li>8回 看護ケアの成果の評価 (評価の指標・測定・研究との関係) (高橋)</li> <li>9回 メンタルヘルスケアに関する最近の国内外の保健・看護論文を学生が選択し、論文抄読・クリティークを行なう。(その1) (高橋)</li> </ol>				

<p>授業計画</p>	<p>10回 9回と同上 (その2) (高橋)  11回 10回と同上 (その3) (高橋)  12回 11回と同上 (その4) (高橋)  13回 12回と同上 (その5) (高橋)  14回 13回と同上 (その6) (高橋)  15回 14回と同上 (その7) (高橋)</p> <p>&lt;在宅ケア分野&gt;  1回 在宅看護の歴史 (小林)  2回 多職種連携によるチームアプローチとケアマネジメント (小林)  3回 在宅医療の発展と医療依存度の高い療養者への看護 (1) (小林)  4回 在宅医療の発展と医療依存度の高い療養者への看護 (2) (小林)  5回 在宅緩和ケア (1) (小林)  6回 在宅緩和ケア (2) (小林)  7回 在宅における End of Life Care (1) (小林)  8回 在宅における End of Life Care (2) (小林)  9回 在宅ケアに関する最近の国内外の保健・看護論文を学生が選択し、論文抄読・クリティークを行なう。(その1) (小林)  10回 同上 (その2) (小林)  11回 同上 (その3) (小林)  12回 同上 (その4) (小林)  13回 同上 (その5) (小林)  14回 同上 (その6) (小林)  15回 同上 (その7) (小林)</p>
<p>学習方法</p>	<p>院生の専門領域分野に分かれて受講する。  &lt;クリティカルケア分野&gt;  講義および討議形式で進める。講義で得た知識を実践にどのように適用できるかを討議するので、準備をして参加する。</p> <p>&lt;メンタルヘルスケア分野&gt;  各回のテーマごとに提示される事前課題を準備して参加する。授業内容について、講義およびプレゼンテーション、ディスカッションを通じて理解する。</p> <p>&lt;在宅ケア分野&gt;  テーマごとに提示される事前課題を準備して参加する。授業内容について、講義およびプレゼンテーション、ディスカッションを通じて理解する。</p>
<p>オフィス ア ワ ー</p>	<p>金曜日の昼休み、もしくはメールにてアポイントをとってください。  y-yamase@jrckicn.ac.jp (山勢)、k-takahashi@jrckicn.ac.jp (高橋)  h-kobayashi@jrckicn.ac.jp (小林) j-hamamoto@jrckicn.ac.jp (濱元)</p>
<p>テキスト</p>	<p>特に指定しない</p>
<p>参考文献</p>	<p>Gail, W.Stuart.:<i>Principles and Practice of Psychiatric Nursing 9<sup>th</sup> ed.</i>. St. Louis, Mosby Elsevier, 2009.  Rudi, Dallos., et al.:<i>An introduction to family therapy: systemic theory and practice</i>. Open University Press, 2000.  Derk, Doyle., et al.:<i>Palliative Care in the Home</i>. Oxford university Press, 2000.  白澤政和他：ケアマネジメント概論。東京，中央法規，2000。</p>
<p>評価方法</p>	<p>レポート (100%)</p>